

勝林寺報

「まひ父に導かれて

堺市 六十二歳の女性の方

三年まえ、父の三回忌にお参りいただいてありがとうございました。実はそれからでございます、父生前のところから毎月届けていただきます『勝林寺寺報』、はじめて心して読ませていただいております。

父は、年に二度(お盆と報恩講)は必ず

但馬のお寺参りに行っておりましたほどの信心家でしたが、最後、病院で亡くなるとき、私にこの『寺報』を俺の遺産と思って大切にいただいてほしいと言い残して逝きました。

わたしは、このうちに嫁いで来たときから、実家はどうあれ、浄土真宗のお勤めをすべきだと心得て、父に従ってお仏壇のおつとめをしてきたつもりでございました。ところが、父の遺言に従って、『勝林寺寺報』を毎月よませていただくうちに、宗教、なんなく淨土真宗というものが、おぼろげながら見えて来たように思えます。

今まで私は、宗教・仏教というものは、死んだ後の極楽や天国を願うもの。そのためには日ごろの暮らしをきれいにしようと努力をする。あるいはまた、ご祖先様を大切に、葬式や法事をていねいに、平生からお仏壇にお札を怠りなくすること。これが宗教と、まあそんなことを漠然とおもつて過ごして参りました。

あんなに立派な父と死に別れ、また、自分自身も年老いて仕舞った今、しかも、『寺報』を真剣に読ませていただくようになつて、それでいまはじめて、今までの大変な思い違いにきづかされ、いま改めて

五月(さつき)なか川  
風(かぜ) 葦(かや) る

五月(さつき)なか川  
鯉のぼる

いよよ壽(こと)たかく

光輝(こうき)あるらー



聞いて見よう学んでみなければと思われるようになります。

先ず第一、人事ではないと云う気がしてきました、亡くなつた祖先のためよりも先に、この私が問題になつて参りました。それから次ぎに、死んでから先の事ではなく、今、61歳を生きている今が、気になつてまいりました。

『勝林寺寺報』を読みますと、毎月、私と同じような年頃の、また、いろんな境遇のご門徒のかたがたの文章がのつております。

それぞれの日暮らしのなかで、真剣に懸命に生きながら、今まで私が思いもししなかつた、力強いもの・貴いものを命のより所にして、素晴らしい生きていらっしゃいます。

今まで、本当にご無沙汰ばかりで申し訳ありませんでした。

亡き父の跡をついで、わたしもこれから聞かせていただこうとおもいます。

今まで、本当にご無沙汰ばかりで申し訳ありませんでした。



七月のこよみ

一日 ビハーラー研修会

二日 幼稚園参観日

三日 日高町役場

四日 衣川忠良氏宅法事

五日 湯口久雄氏宅法事

六日 遊戯掃除磨き奉仕

七日 正福寺永代経

八日 組合社総会(西宗寺)

九日 永代経

十日 岩上三喜夫氏宅法事

十一日 平野稔氏宅法事

十二日 鳥取妙円寺永代経

十三日 鳥取真宗寺永代経

十四日 鳥取真宗寺永代経

十五日 岩上三喜夫氏宅法事

十六日 平野稔氏宅法事

十七日 鳥取妙円寺永代経

十八日 鳥取真宗寺永代経

十九日 岩上三喜夫氏宅法事

二十日 平野稔氏宅法事

二十一日 鳥取妙円寺永代経

二十二日 鳥取妙円寺永代経

二十三日 鳥取妙円寺永代経

二十四日 鳥取妙円寺永代経

二十五日 鳥取妙円寺永代経

二十六日 鳥取妙円寺永代経

二十七日 鳥取妙円寺永代経

二十八日 鳥取妙円寺永代経

二十九日 鳥取妙円寺永代経

三十日 鳥取妙円寺永代経

三十一日 鳥取妙円寺永代経

三十二日 鳥取妙円寺永代経

三十三日 鳥取妙円寺永代経

三十四日 鳥取妙円寺永代経

三十五日 鳥取妙円寺永代経

三十六日 鳥取妙円寺永代経

三十七日 鳥取妙円寺永代経

三十八日 鳥取妙円寺永代経

三十九日 鳥取妙円寺永代経

四十日 鳥取妙円寺永代経

四十一日 鳥取妙円寺永代経

四十二日 鳥取妙円寺永代経

四十三日 鳥取妙円寺永代経

四十四日 鳥取妙円寺永代経

四十五日 鳥取妙円寺永代経

四十六日 鳥取妙円寺永代経

四十七日 鳥取妙円寺永代経

四十八日 鳥取妙円寺永代経

永代経法要

七月 九日 よる八時

ひる 一時

八月 九日 あさ 仏婦総会

二時

講師 謙峯山 知田孝幸先生

(広島)

如来さまの無量ないのちのなかに、若いも若きも、亡くなつた方とも、出会いわしてもらう慶びをともにする法要です。

こぞつてお参り下さい。

七	月	の	こ	よ	み
一	日	ビ	ハ	ー	ラ
二	日	幼	稚	園	參
三	日	日	高	町	役
四	日	衣	川	忠	良
五	日	湯	口	久	雄
六	日	正	福	寺	永
七	日	福	組	社	代
八	日	妙	社	總	經
九	日	圓	會	会	會
十	日	妙	圓	會	會
十一	日	妙	圓	會	會
十二	日	妙	圓	會	會
十三	日	妙	圓	會	會
十四	日	妙	圓	會	會
十五	日	妙	圓	會	會
十六	日	妙	圓	會	會
十七	日	妙	圓	會	會
十八	日	妙	圓	會	會
十九	日	妙	圓	會	會
二十	日	妙	圓	會	會
二十一	日	妙	圓	會	會
二十二	日	妙	圓	會	會
二十三	日	妙	圓	會	會
二十四	日	妙	圓	會	會
二十五	日	妙	圓	會	會
二十六	日	妙	圓	會	會
二十七	日	妙	圓	會	會
二十八	日	妙	圓	會	會
二十九	日	妙	圓	會	會
三十	日	妙	圓	會	會
三十一	日	妙	圓	會	會
三十二	日	妙	圓	會	會
三十三	日	妙	圓	會	會
三十四	日	妙	圓	會	會
三十五	日	妙	圓	會	會
三十六	日	妙	圓	會	會
三十七	日	妙	圓	會	會
三十八	日	妙	圓	會	會
三十九	日	妙	圓	會	會
四十	日	妙	圓	會	會
四十一	日	妙	圓	會	會
四十二	日	妙	圓	會	會
四十三	日	妙	圓	會	會
四十四	日	妙	圓	會	會
四十五	日	妙	圓	會	會
四十六	日	妙	圓	會	會
四十七	日	妙	圓	會	會
四十八	日	妙	圓	會	會
四十九	日	妙	圓	會	會
五十	日	妙	圓	會	會
五十一	日	妙	圓	會	會
五十二	日	妙	圓	會	會
五十三	日	妙	圓	會	會
五十四	日	妙	圓	會	會
五十五	日	妙	圓	會	會
五十六	日	妙	圓	會	會
五十七	日	妙	圓	會	會
五十八	日	妙	圓	會	會
五十九	日	妙	圓	會	會
六十	日	妙	圓	會	會
六十一	日	妙	圓	會	會
六十二	日	妙	圓	會	會
六十三	日	妙	圓	會	會
六十四	日	妙	圓	會	會
六十五	日	妙	圓	會	會
六十六	日	妙	圓	會	會
六十七	日	妙	圓	會	會
六十八	日	妙	圓	會	會
六十九	日	妙	圓	會	會
七十	日	妙	圓	會	會
七十一	日	妙	圓	會	會
七十二	日	妙	圓	會	會
七十三	日	妙	圓	會	會
七十四	日	妙	圓	會	會
七十五	日	妙	圓	會	會
七十六	日	妙	圓	會	會
七十七	日	妙	圓	會	會
七十八	日	妙	圓	會	會
七十九	日	妙	圓	會	會
八十	日	妙	圓	會	會
八十一	日	妙	圓	會	會
八十二	日	妙	圓	會	會
八十三	日	妙	圓	會	會
八十四	日	妙	圓	會	會
八十五	日	妙	圓	會	會
八十六	日	妙	圓	會	會
八十七	日	妙	圓	會	會
八十八	日	妙	圓	會	會
八十九	日	妙	圓	會	會
九十	日	妙	圓	會	會
九十一	日	妙	圓	會	會
九十二	日	妙	圓	會	會
九十三	日	妙	圓	會	會
九十四	日	妙	圓	會	會
九十五	日	妙	圓	會	會
九十六	日	妙	圓	會	會
九十七	日	妙	圓	會	會
九十八	日	妙	圓	會	會
九十九	日	妙	圓	會	會
一百	日	妙	圓	會	會
一百零一	日	妙	圓	會	會
一百零二	日	妙	圓	會	會
一百零三	日	妙	圓	會	會
一百零四	日	妙	圓	會	會
一百零五	日	妙	圓	會	會
一百零六	日	妙	圓	會	會
一百零七	日	妙	圓	會	會
一百零八	日	妙	圓	會	會
一百零九	日	妙	圓	會	會
一百十	日	妙	圓	會	會
一百十一	日	妙</td			

手を離すこと（先月号で「ここ」のメンバーやちは手をつなぐことで通じあっていきます。どうぞこの子たちと手をつないでください」と訴えました。）も大切ですが、案外むづかしいのは、じつは手を離すこと。とくにわが子に対して親は、いつまでも口や手を出したがるのが常です。子供が大きくなつても、いつまでも、守つて上げなければ、○○してあげなければ…と思ひ込んでいて、親の目のとどく範囲で動いてくれていないと、なぜか不安になつてしまふのが親のこころです。まして、そのかわいいわが子に障害があつたとしたらなおさらです。（中略）

この「はこべの家」作業所にも、周囲のだれかにしてもらうことに慣れすぎていて、できる力があるにもかかわらず、なにごとも受動的になつてしまつて仲間がいります。

「サポートすること」と「甘やかすこと」の区別は難しく、時と場合によつて上手に見きわめ使い分けをしなくてはいけないと思ひます。

どの段階で手を離すかが、身近にいる（親やきょううだいを含めた）支援者にどう思ひます。

また、とくに知的障害がある場合は、なんといつても手を離した後の「見まもり」というサポートがとても重要になります。（中略）

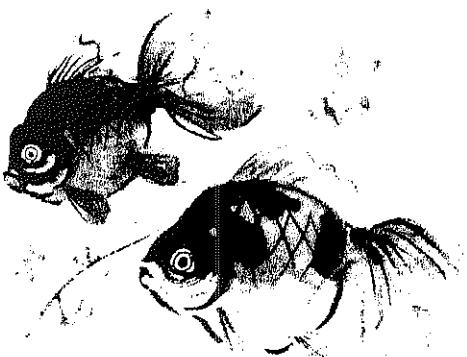
失敗があつても、泣くことがあつても、痛みや苦惱を覚悟で手を離す。そして見まもりを続けサポートする。そんな勇気ある決断が、知的障害をもつ人の支援者には、大切な仕事だと思います。

◇  
知的障害者支援施設「はこべの家」作業所の所長宮下典子さんの文章です。

## 手を離して 「見守り」の サホートを



六月二十六日 川原町  
九十六歳 龍井かね子さま



わたしは長くこの作業所で一緒に作業しながら、いろいろなことを学ばせてもらつています。この文章からだけではなく宮下さんの日常から、わたしはこんなことを気づかせてもらいました。

まず、ついつい「孫べつたり」のわが身。要するに無責任なエゴでしかないことを厳しく反省させられました。

次ぎに、如来様の願い（本願・他力）をあらためて味わつてみました。

「すべての衆生を救わずにはおかぬと願う親がいまここにいることに気づいてほしい。ただ五つの罪（親を殺すなどの五逆罪）と誇法（真理をそしる）の者は、救つてやりようがない」（第十八願・本願）

六月二十一日～二十二日。例年通り、京都本山に参拝。大谷本廟でこの一年に亡くなつた方の遺骨をご遺族とともに納骨法要をつとめました。それからが大変。前坊守さまの今年は十三回忌。ぜひせひその古里島根県温泉津町瑞泉寺さまにお参りしようという声にこたえて遠路はるばる長距離旅行でした。お墓にもお参りして帰途は絶景の山陰道。松江の大根島。境港にも立ち寄り、好天の中を四十六名快適、有意義な旅がありました。



## 消掃・おみがき奉仕

七月五日 午後一時より  
奉仕ご参加お願い致します。

仏社会長 永井孝一郎  
南 加寿子

七月九日 前九時半開会  
記念講演 護山 知孝先生

【作口印展二示△△】  
例年通り法要期間中作品展示会をします。  
作品は六日までに搬入して下さい。

評議員員よじ士  
作品募集にご協力下さい。

勝林寺仏教婦人会長  
南 加寿子

勝林寺佛教婦人会  
会

お母ちゃんは  
ぼくが  
生まれてくるのん  
ずつと  
まつてたん?  
あえてうれしい  
じやあ  
ぼくにあえて  
うれしい?  
ぼくも  
おかあちゃんに  
あえて うれしい  
たくみ(弟)も  
きつと  
うれしいはずやな  
ぼくに あえて……



もりもと だいち (三歳)

テレホン法話 0796-52-5800